

札幌市雪対策審議会 第1回 除排雪手法小委員会

事務局説明資料
札幌市建設局土木部 雪対策室計画課

目 次

1 第1回札幌市雪対策審議会の概要

2 雪対策の現状と課題

- ◇ 雪対策予算
- ◇ 除雪事業者・機械
- ◇ 除排雪手法
- ◇ 雪堆積場・雪処理施設

3 生活道路除排雪の在り方検討

4 意見交換やご議論いただきたい内容



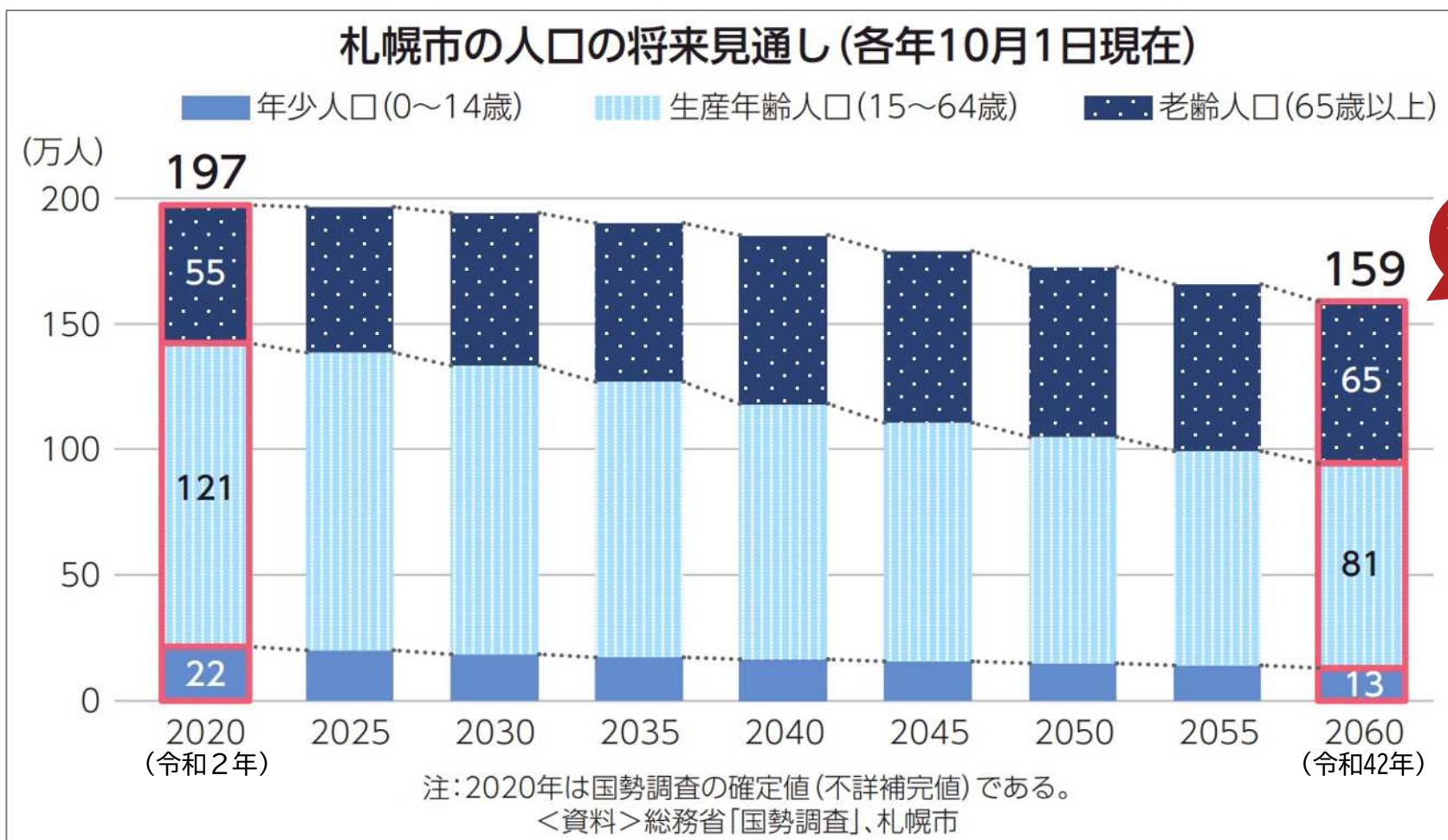
1 第1回札幌市雪対策審議会(7/2開催)の概要

1 第1回札幌市雪対策審議会の概要

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度)第1回除排雪手法小委員会

■人口減少に伴う担い手不足や税収減の可能性

- 札幌市の人口は、R2年(2020年)からR42年(2060年)までに38万人減少(19.2%減)し、中でも「生産年齢人口(15～64歳)」は、40万人減少(33.1%減)する予測
- 人口減少に伴い、今後、社会全体の担い手不足や税収の減少などの問題が避けられない状況



札幌市は大幅な人口減少予測

※第3期さっぽろ未来創生プランからの抜粋

1 第1回札幌市雪対策審議会の概要

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度)第1回除排雪手法小委員会

<札幌市が置かれた状況と雪対策を取り巻く環境>

- ・人口減少に伴う社会全体の担い手不足、税収減少の可能性→持続可能な都市の在り方検討の必要性
- ・除雪従事者の不足、除排雪に関する市民ニーズ等の変化、雪対策予算が年々増加

課題1：持続可能な除排雪体制の構築

- ・除雪従事者の確保・育成
- ・イノベーションの導入等による除排雪作業の省力化・効率化
- ・除雪従事者の減少を踏まえた作業方法（冬の道路環境）の検討

課題2：市民ニーズや気象の変化に対応した除排雪方法の見直し

- ・生活道路の除排雪方法（パートナーシップ排雪制度等を含む）の検討
- ・大雪時の柔軟かつ臨機な体制の構築

課題3：健全な財政運営の見地から雪対策予算規模の検討

課題4：雪との共生に向けた市民理解の醸成

※課題1～課題3全てに関わる内容

<検討のポイント>

- 短期(今後10年程度) : ①現状の担い手や財政状況を踏まえた公的除排雪の在り方
②想定を超える急速な担い手不足への対応
- 長期(今後10～30年程度): 人口減少(担い手減)の状況下における持続可能な雪対策の方向性

<目指す姿(想定)>

人口減少や担い手不足など社会情勢の変化や大雪などの気象の変化に対応し、市民が将来にわたり安心して冬季の生活を送れる持続可能な雪対策の実現

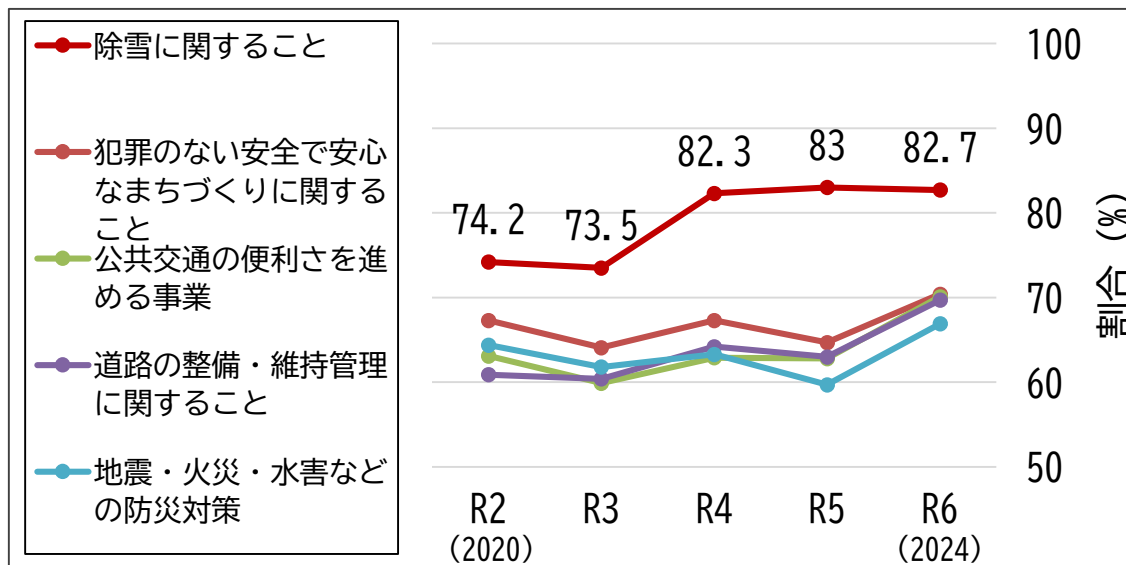
1 第1回札幌市雪対策審議会の概要

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度)第1回除排雪手法小委員会

■市民意識調査結果

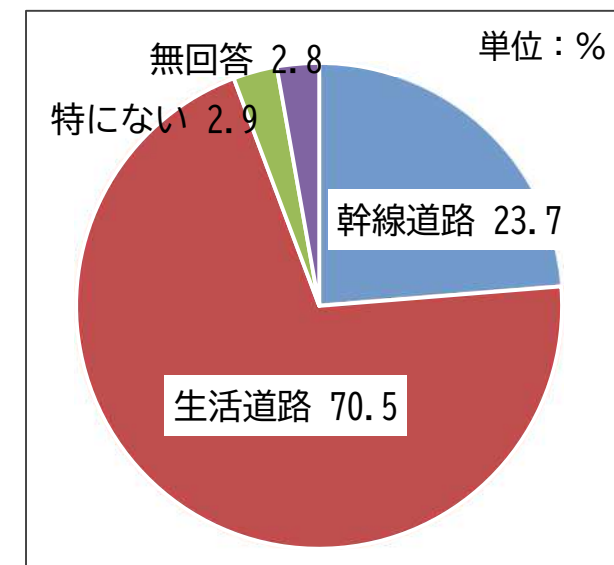
- 札幌市に力を入れてほしいと思う施策・事業：過去5年間に於いて常に上位
- 今後、力を入れてほしい道路：幹線道路が23.7%、生活道路が70.5%

「札幌市に力を入れてほしいと思う施策・事業」
過去5年間に於ける上位5項目の推移



除排雪に関する市民ニーズは常に高い

設問：今後特に除排雪に力を入れてほしいと思う道路はどこですか(令和6年度(2024年度)第1回)



市民ニーズ：生活道路

令和5年度(2023年度)から、パートナーシップ排雪制度等も含めた
生活道路除排雪の在り方について検討

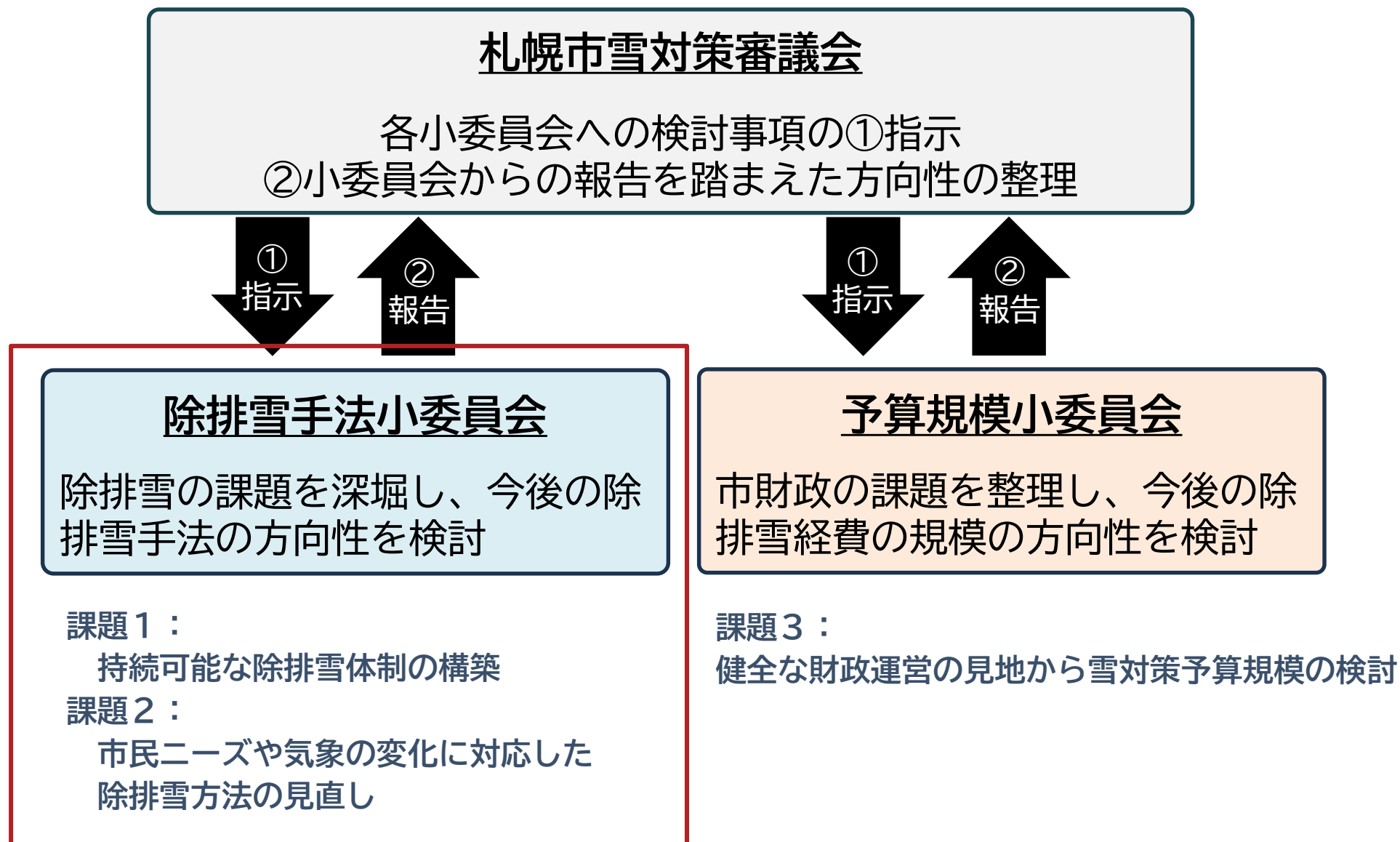
生活道路
除排雪の検討

1 第1回札幌市雪対策審議会の概要

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度)第1回除排雪手法小委員会

■審議会と小委員会の関係

- ・ 小委員会：審議会から指示を受けた内容を検討し、審議会へ報告
- ・ 審議会：小委員会の報告を踏まえて、雪対策の在り方の方向性を整理



1 第1回札幌市雪対策審議会の概要

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度)第1回除排雪手法小委員会

■審議会年次スケジュール(想定)

- 令和7年度(2025年度): 札幌市雪対策審議会の設置及び持続可能な雪対策に向けた審議を開始
- 令和8年度(2026年度): 雪対策の「基本方針の策定」
- 令和9年度(2027年度): 雪対策の「基本計画の策定」

■基本方針及び基本計画の概要・位置づけ

項 目	概 要 ・ 位置づけ
基本方針	当面の除排雪の在り方のみならず、将来を見据えた雪対策の長期的な展望として、持続可能な雪対策の方向性をまとめた方針
基本計画	基本方針に基づき策定する現行の「札幌市冬のみちづくりプラン2018(2018～2027)」に代わる新たな雪対策の基本計画(2027～2036)

2 雪対策の現状と課題

雪対策予算



2 雪対策の現状と課題（雪対策予算）

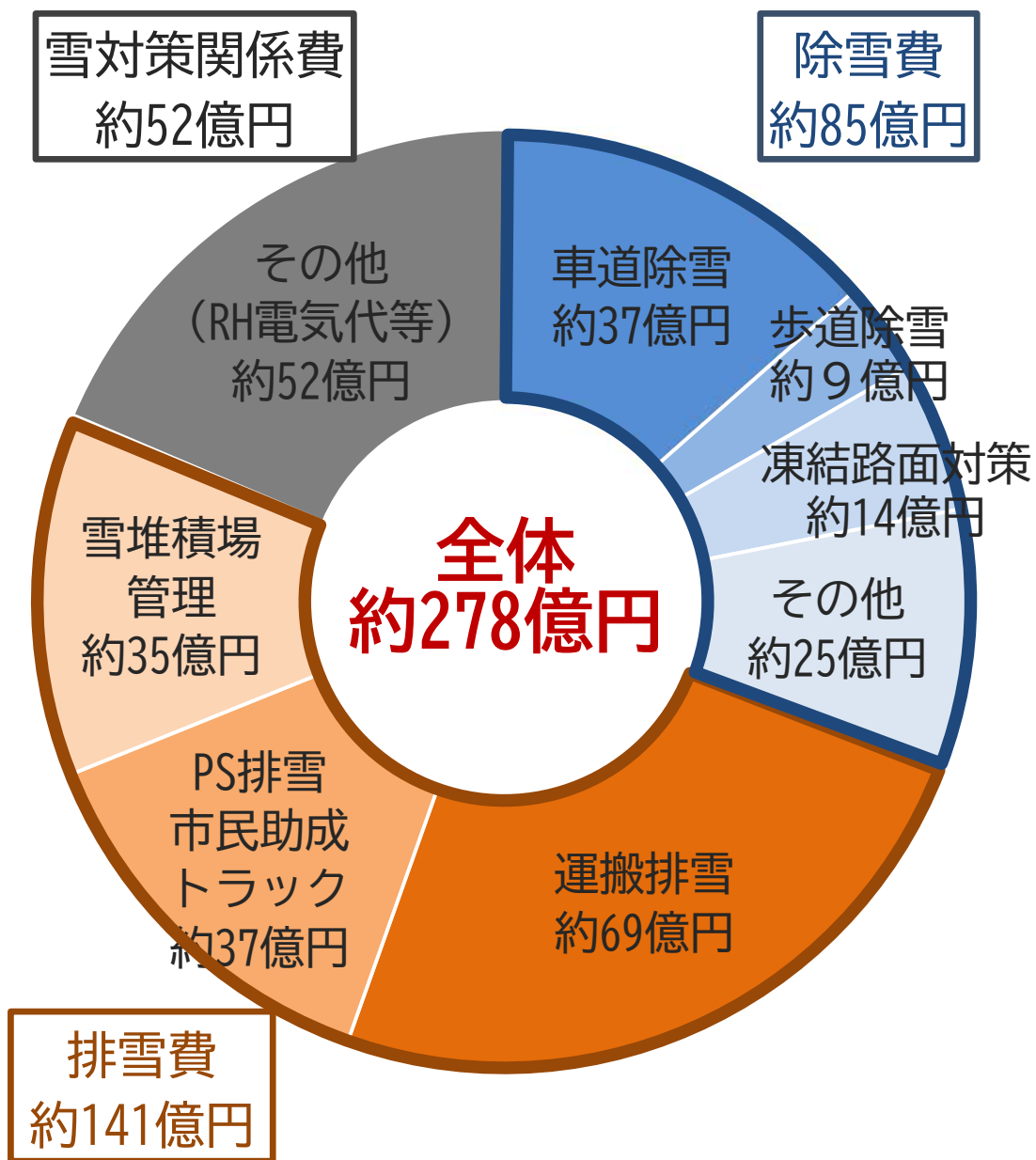
札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■雪対策予算

- 除雪費と排雪費で全体の約8割
- 排雪費は全体の約5割を占める

課 題・ポイント

- 雪対策予算
過去10年で約97億円増加（1.5倍）
H26年度(2014年度)：181億円
R6年度(2024年度)：278億円
- 除雪費と排雪費
労務費や物価、燃料費の高騰により増加
- 雪対策関係費
概ね同額で推移



令和6年度(2024年度)雪対策予算(2定補正後)

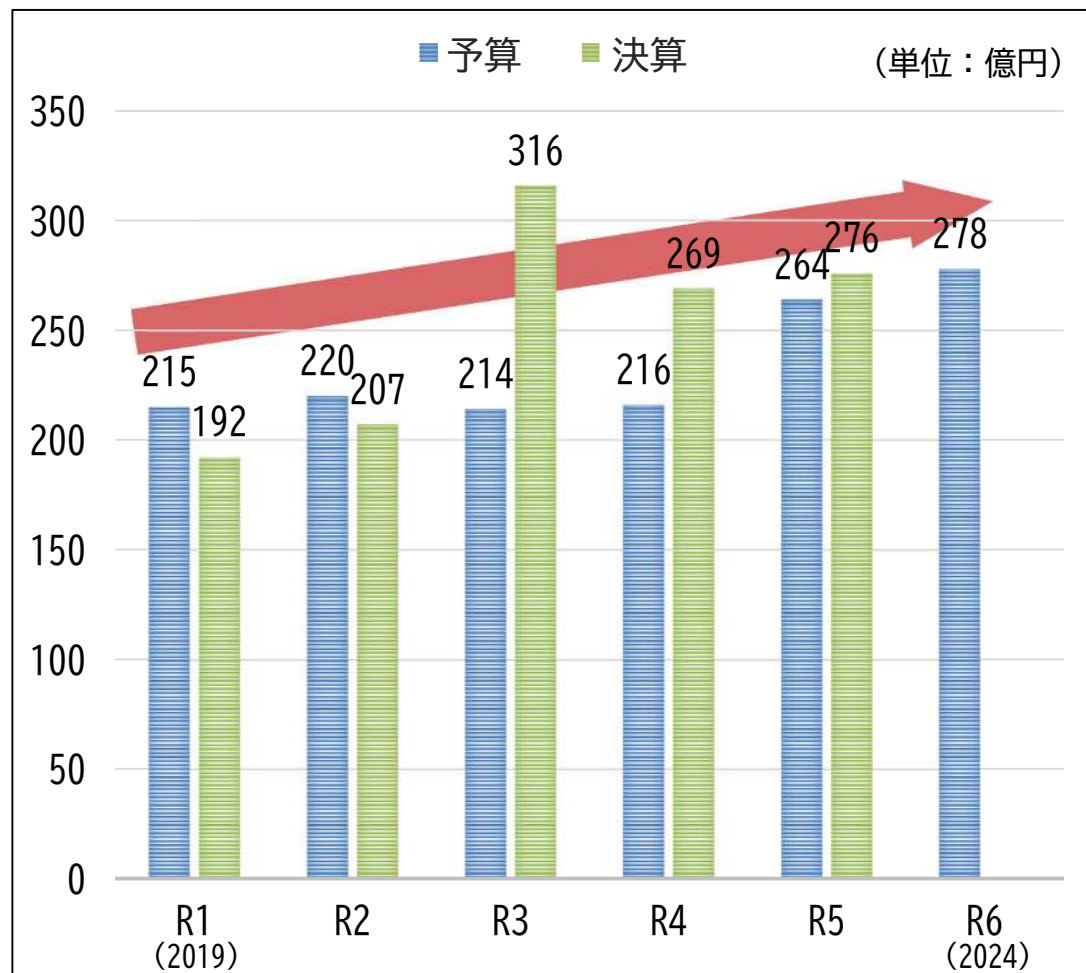
2 雪対策の現状と課題（雪対策予算）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

大雪等の気象に応じた対応

- 降雪量や積雪深などに応じて、予算が不足した場合、適宜、補正予算により対応
- 令和3年度(2021年度)の大雪の経験を踏まえ、大雪対応の一部経費を当初予算に計上

雪対策予算・決算の推移



※ 決算：予算が不足した場合に増額する補正予算を加えた額

令和3年度(2021年度)の道路状況

幹線道路

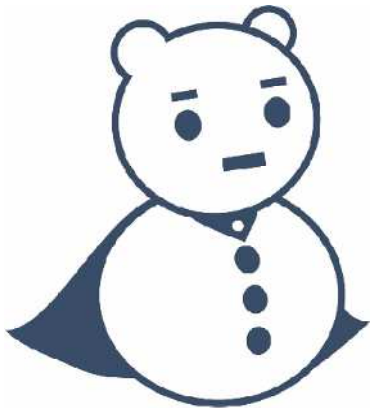


生活道路



2 雪対策の現状と課題

除雪事業者・機械



2 雪対策の現状と課題(除雪事業者・機械)

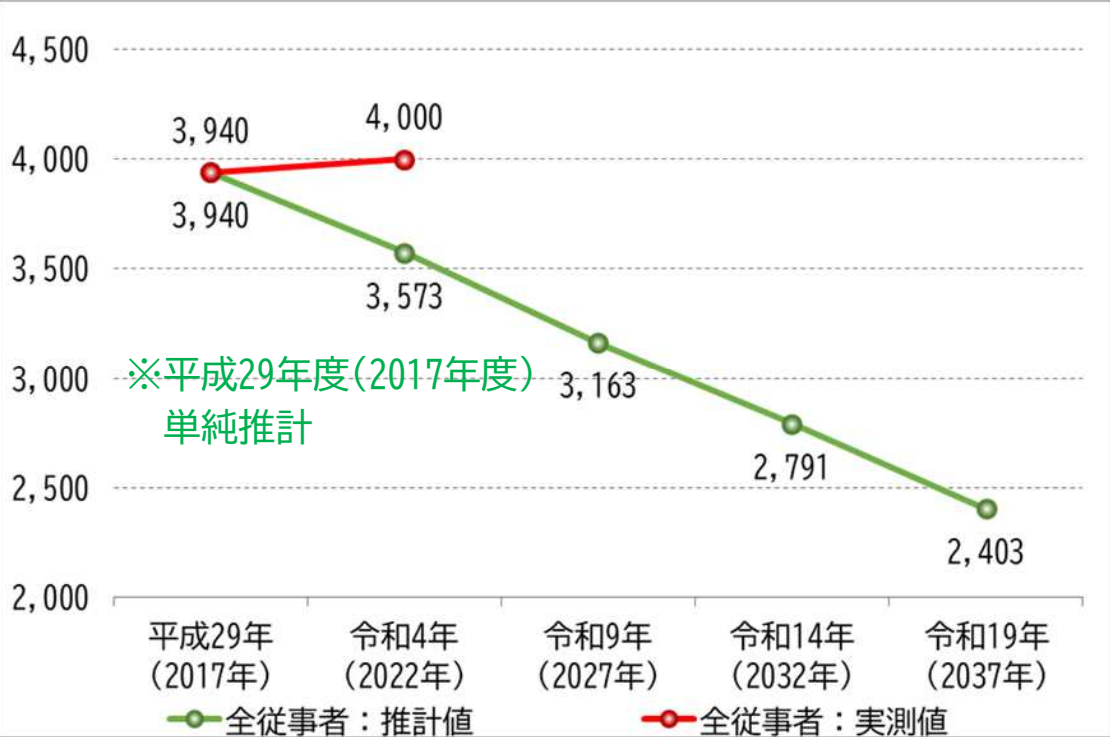
札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■除排雪事業者(担い手)

- 平成29年度(2017年度)から令和4年度(2022年度)の間で、除雪従事者全体の人数は大きく減っていない状況

課題・ポイント

- 半数が50歳以上であり、将来的には除雪従事者の大きな減少が見込まれる



除雪従事者数の推移
(令和4年度(2022年度)調査)

分 類		R4調査	
除雪 ハ°レータ-	50歳以上	50%	19%(60歳以上) 31%(50代)
	50歳未満	50%	-
作業員 ほか	50歳以上	52%	26%(60歳以上) 26%(50代)
	50歳未満	48%	-

除雪従事者の年齢構成
(令和4年度(2022年度)調査)

注) 除雪従事者：札幌市の道路除排雪業務に従事している方

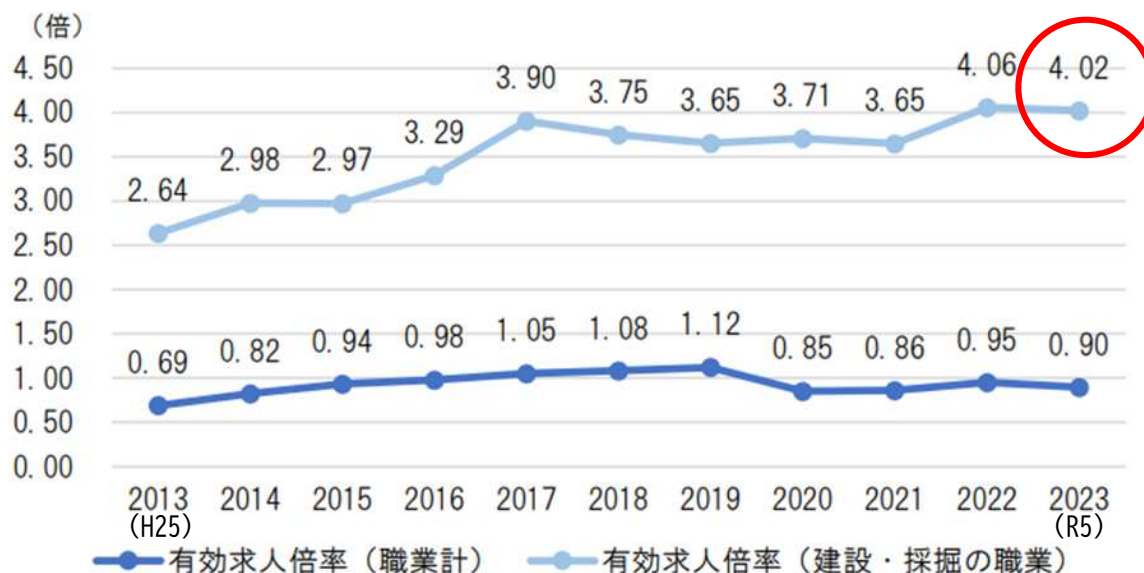
2 雪対策の現状と課題(除雪事業者・機械)

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■除雪事業者の厳しい現状

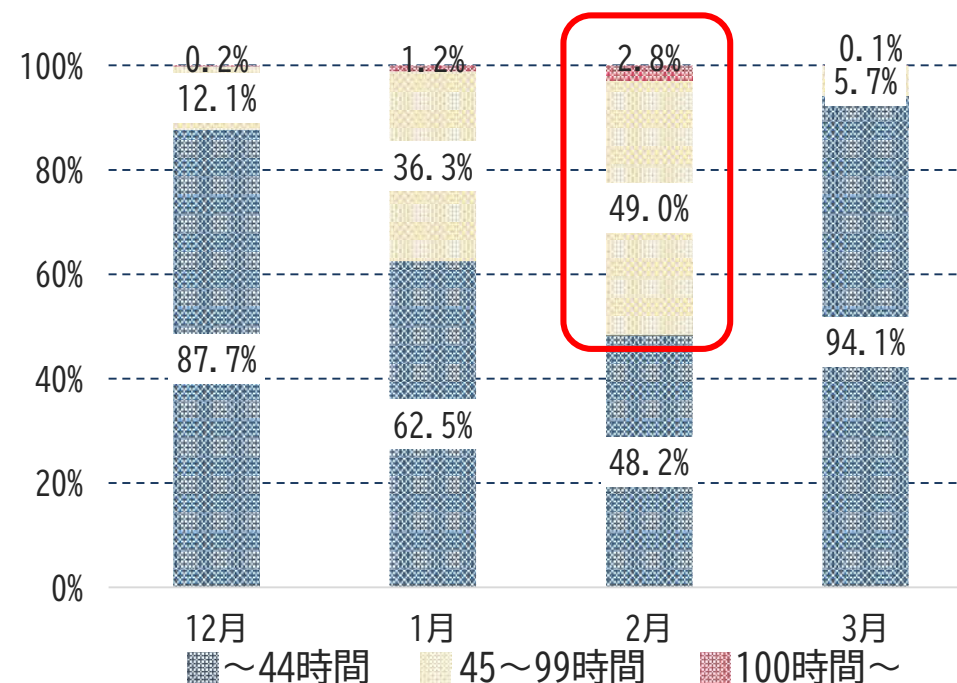
課 題・ポイント

- 建設業関連(札幌圏)の有効求人倍率
令和5年度(2023年度)は約4倍で慢性的に人材が不足(全職業の倍率が1.0倍前後)
- 除雪従事者の残業時間(気象状況に大きく影響を受ける)
除排雪作業のピークとなる1月～2月にかけて増加
2月は半数が月45時間以上の残業
- 求められる働き方改革に向けた取組



札幌圏の建設に関する職業の有効求人倍率

出典：さっぽろ建設産業活性化プラン2025



除雪従事者の残業時間

(令和4年度(2022年度)調査)

2 雪対策の現状と課題(除雪事業者・機械)

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■除排雪機械

- 除排雪作業で稼働している除雪機械は1,438台(令和6年度)
＜内訳＞ 市貸与車両 : 除雪事業者管理車両 = 432台 : 1,006台
- 約2割は20年以上が経過(すべて除雪事業者が保有)
- 車体価格が年々高騰し、新車への更新が難しくなっている

課 題・ポイント

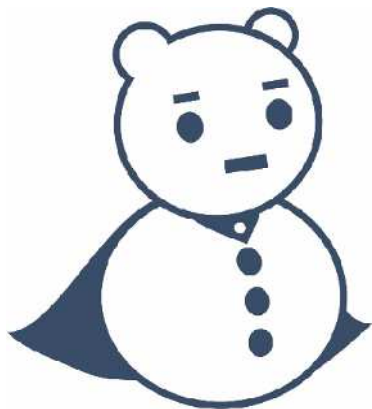
- 車両の維持管理や購入費用の増大により、除雪事業者の負担が増加
- 体制維持のため、近年、市貸与車両を増加しており、併せて購入費や維持管理費が増加の見込み



除雪機械	車体金額
グレーダ	約4,200万円
大形ロータリ	約6,200万円
小形ロータリ	約3,500万円

2 雪対策の現状と課題

除排雪手法



2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■車道除雪対象延長

道路種別	除雪延長
主要幹線	約90 km
幹線	約390 km
補助幹線	約1,710 km
幹線系合計	約2,190 km
生活道路	約3,270 km
除雪対象延長合計	約5,460 km

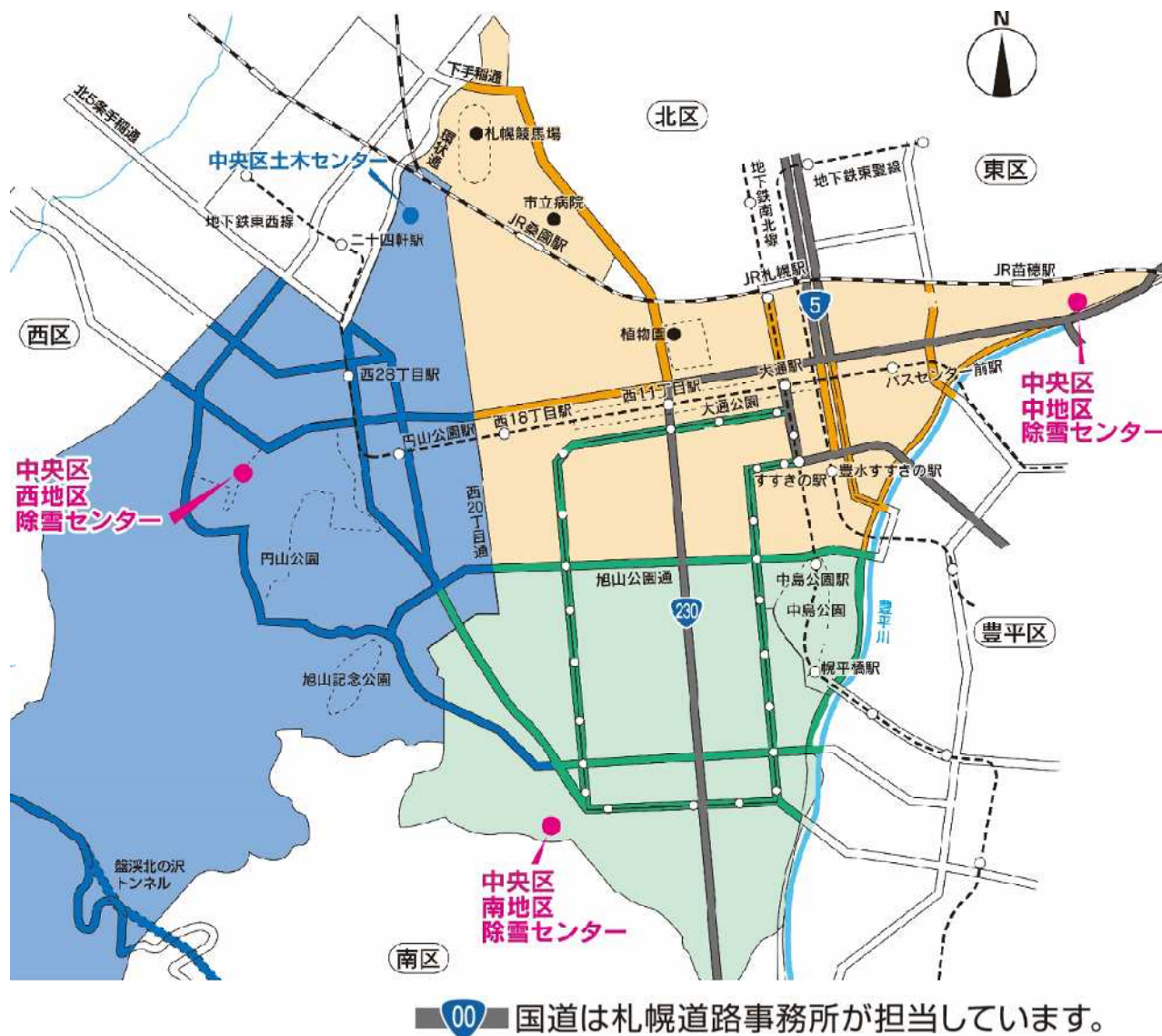
【備考】

道路管理延長約5,546kmのうち約86kmは幅員が狭く機械除雪ができない等の理由により、未除雪路線となっている。

■マルチゾーン除雪

- 地域特性等に合わせ効率的に作業を行うため、区を2～3地区に分けたマルチゾーン（市内23地区）ごとに除排雪作業を実施

マルチゾーン区域図(中央区版)
(令和6年度(2024年度))



2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■目指すべき道路環境(札幌市冬のみちづくりプラン2018)

- 新雪除雪、路面整正、拡幅除雪、排雪作業を組み合わせ、シーズンを通した冬季道路環境を確保

冬の道路環境(路面・通行幅)の目標

札幌市冬のみちづくりプラン2018 (P.47、P.51)

	路面（圧雪厚）	通行幅（幅員確保）
主要幹線	3cm以内	4車線以上
幹線	5cm以内	3車線以上
補助幹線	25cm以内	1.5車線以上
生活道路	30cm以内	1車線+歩行空間以上

※ 目標とする「圧雪厚」と「通行幅」を示したもの(大雪などの異常気象時は除く)

道路種別のイメージ図




札幌市冬のみちづくりプラン2018 (P.49)



2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■新雪除雪

項目	幹線道路	生活道路	歩道※
作業内容	・車道に降った雪を歩道側に寄せる （かき分け除雪）	・道路に降った雪を歩道や住宅側に寄せる （かき分け除雪）	・歩道に降った雪を車道側に積み上げる
目 出 安 動	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ連続した降雪で、雪の深さが10cmを超えており、車や人の通行に支障が発生すると予想される場合 ・風雪や地吹雪で、吹きだまりの発生が予想される場合 など 		
作業班構成	グレーダ2台・ショベル2台 （2～4車線級）	ショベル	ロータリ車
			

幹線道路



生活道路



※歩道除雪の対象路線：
有効幅2.0m以上の歩道のうち、
JR・地下鉄駅や公共施設周辺等の
歩行者の多い場所

	管理延長	除雪延長
歩道延長(km)	約8,600	約3,050



歩道の管理延長と除雪延長

【作業時間】 0～6時ごろ（渋滞や事故を避けるため、通勤時間までに実施）

2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■路面整正・拡幅除雪

項目	路面整正	拡幅除雪
作業内容	<ul style="list-style-type: none">路面の凸凹やワダチを削って平らにし、削った雪を道路脇に寄せる（家の出入り部に寄せる雪は緩和）	<ul style="list-style-type: none">走行幅員を広げるため、道路脇の雪山の裾をかきとり、山の上に積み上げる
出動目安	<ul style="list-style-type: none">路面状況が悪化したとき暖気になり、圧雪がザクザクになったとき	<ul style="list-style-type: none">道路の幅が狭くなったとき次回の新雪除雪の作業に支障があるとき
作業班構成	ショベル 	ロータリ車 

路面整正




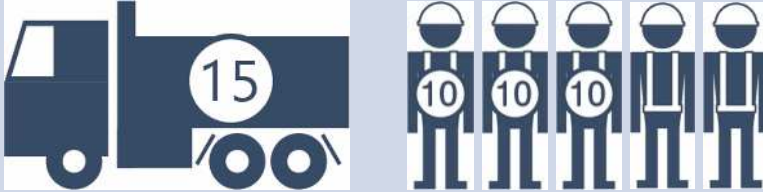


拡幅除雪



2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

■運搬排雪(市が行う作業)

- 道路の雪山、車道の幅員、車の通行状況、路線の重要性などを勘案しながら、幹線道路や通学路の一部で実施
- 原則シーズン1回だが、バス路線は排雪回数を増強(+1～2回)
- 道路状況に応じて、交差点排雪を適宜実施

項目	市が行う排雪		
	計画排雪		交差点排雪
	幹線道路等（原則1回）	通学路（原則1回）	交差点（状況に応じて適時）
作業内容	・道路脇の雪山等をダンプトラックに積み込み、雪堆積場や融雪施設へ運び入れる作業		
対象	・交通量の多い幹線道路 ・地下鉄駅等の車が集中する道路	・各学校で指定された通学路の一部	・雪山が大きくなり、見通しが悪くなっている箇所
時期	1月上旬～2月上旬		状況に応じて適時
作業班構成	ロータリ車・グレーダ・ショベル・バックホウ		ショベル・バックホウ
	 		 

2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

生活道路
除排雪の検討

■生活道路の排雪(地域と市が協働で行う作業)

- ・ パートナースhip排雪制度及び市民助成トラック制度により、市民(地域)と札幌市が協力して実施（実施時期：1月末～3月上旬）

パートナーシップ排雪制度 (H4年(1992年)～)

- 地域・除雪事業者・行政の3者が、連携協力しながら排雪を実施
- 利用団体と札幌市で排雪費用を分担



パートナーシップ排雪

市民助成トラック制度 (S44年(1969年)～)

- 町内会などで道路の排雪を行う場合、市は年1回無料で運搬用トラックを貸し出し
- 雪を積み込む作業は、申請団体が手配した業者などが実施



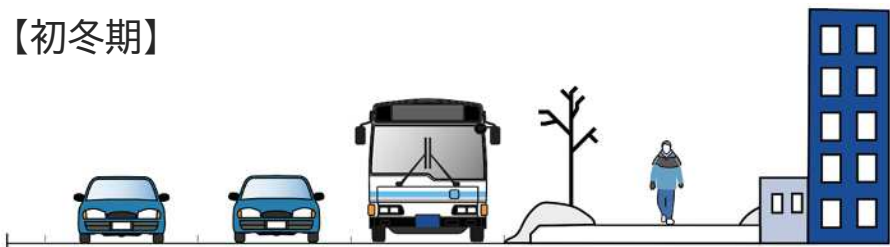
市民助成トラック

2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

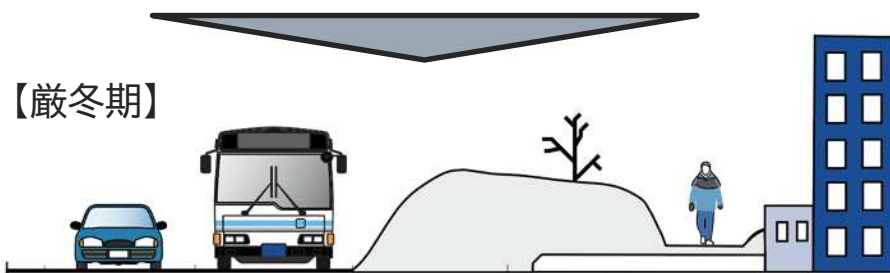
札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■ 冬季間の道路状況の変遷イメージ（幹線道路 - 半断面）

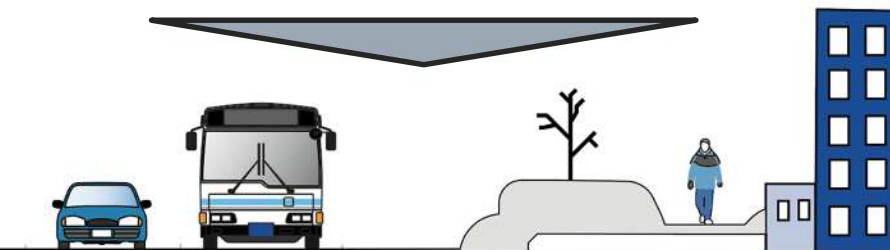
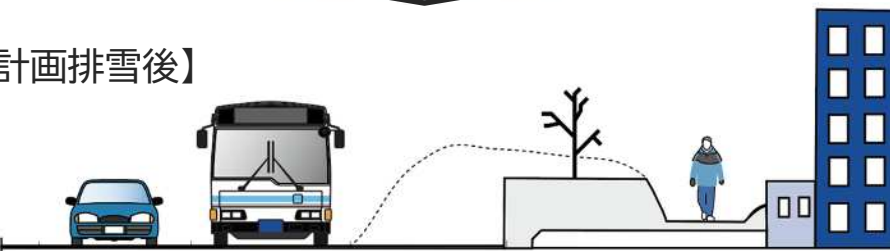
【初冬期】



【厳冬期】



【計画排雪後】



シーズンを通した作業回数と費用
(令和6年度(2024年度))

【除雪】

- ・ 新雪除雪：約20回、約11億円
- ・ 拡幅除雪：約5回、約5億円
- ・ 歩道除雪：約18回、約9億円

合計：約25億円

【排雪】

- ・ 計画排雪：1回、約40億円
- ※対象路線全線を1回排雪するには、約30日を要する
- ※バス路線：+1～2回多く排雪を実施(排雪強化)

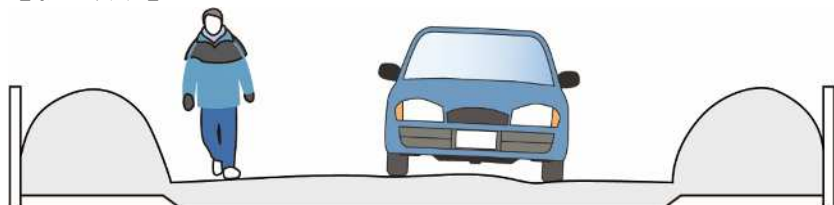
2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■ 冬季間の道路状況の変遷イメージ（生活道路）

シーズンを通した作業回数と費用
(令和6年度(2024年度))

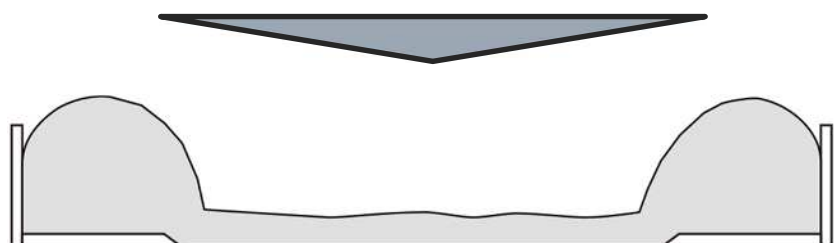
【初冬期】



【厳冬期】



【パートナーシップ(P S)排雪後】



【除雪】

- ・新雪除雪：約16回、約11億円
- ・路面整正：約3回、約8億円
- ※1回実施するには3日程度の日数が必要
- ・拡幅除雪：約2回、約2億円

合計：約21億円

【排雪】

- ・P S 排雪等：1回、約37億円＋約10億円
(市負担分) (地域負担分)

※申し込みがあった路線全線を1回排雪するには、30日程度の日数が必要

課 題

- ・ P S 排雪等を実施していない地域では、除雪後の雪を置く場所がないため、ザクザク路面への対応が遅れる場合がある

生活道路
除排雪の検討

2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

■除雪と排雪作業の比較（幹線道路の例）

- ・ 人員(1班当り)：排雪は、除雪の約4倍の人員が必要
- ・ 費用(1km当り)：排雪は、除雪の約64倍の費用が必要

※代表的な数値を比較したもの。道路形態、降雪や積雪状況等により変動する

■除雪・排雪に係る人員・機械の標準班構成

生活道路

除雪（雪をかき分ける）の1チーム



排雪（雪を運ぶ）の1チーム

ロータリ 	タイヤショベル 	ダンプトラック 
グレーダ 	バックホウ 	交通誘導警備員 運転手など 

幹線道路

除雪（雪をかき分ける）の1チーム



排雪（雪を運ぶ）の1チーム

ロータリ 	タイヤショベル 	ダンプトラック 
グレーダ 	バックホウ 	交通誘導警備員 運転手など 

課 題

- ・ 排雪には相当数の人員や機械、費用が必要であり、将来的な担い手不足に対応するために、これまで以上に作業の効率化が求められている

2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■雪堆積場

- ・市内外に82箇所の雪堆積場を開設
(最大搬入可能量約2,700万m³)
公共専用：51箇所、一般受入：31箇所

課 題

- ・市街地周辺にはまとまった空き地がないことや、振動・騒音等の理由により、雪堆積場を郊外に設置せざるを得なく、排雪作業の効率低下(運搬距離の増加)を招いている

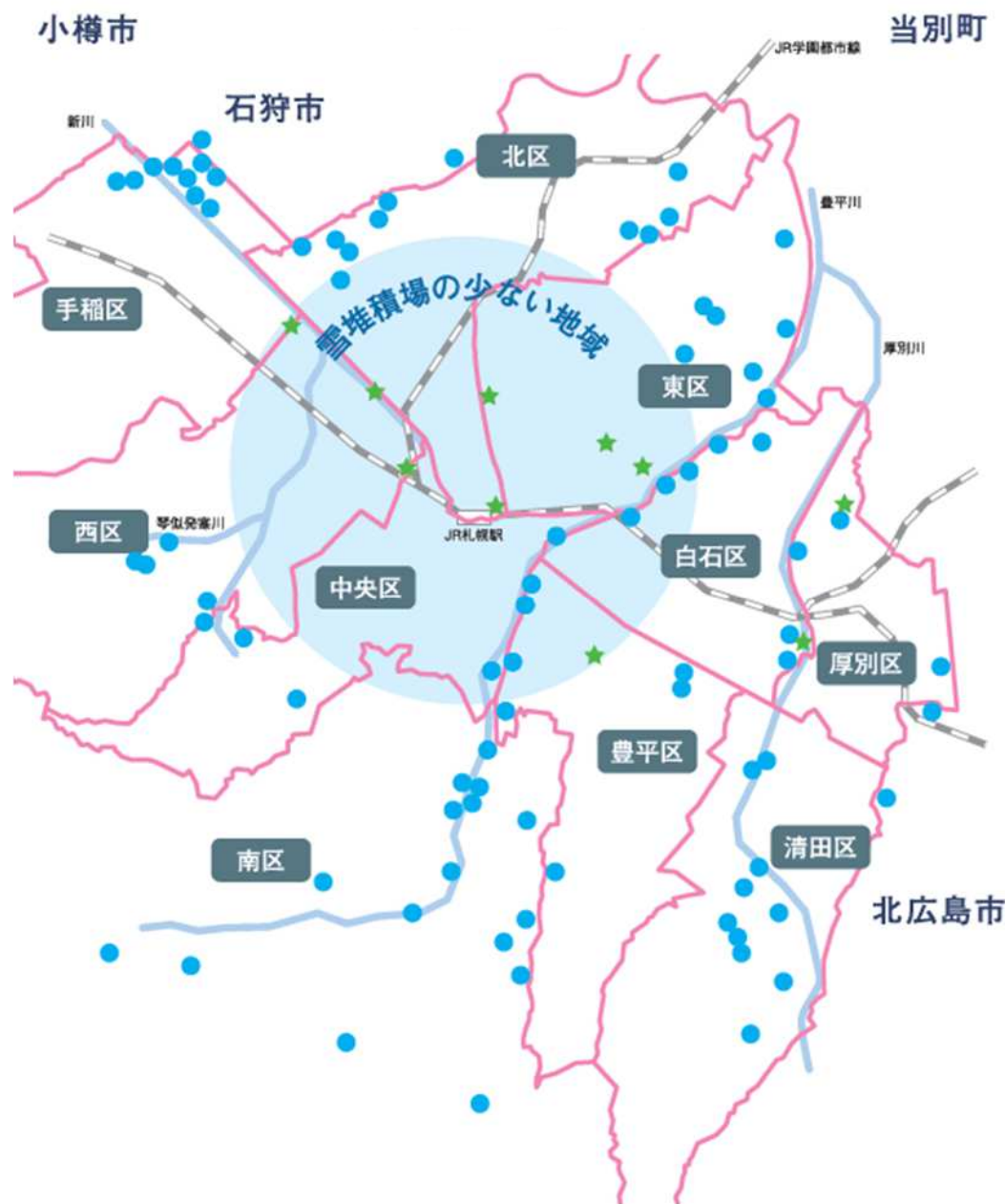
■雪処理施設

- ・融雪槽等：7施設
- ・地域密着型雪処理施設：3施設
- ・流雪溝：8施設

課 題

- ・施設の老朽化に伴う大規模な改修が必要
- ・流雪溝は、沿線住民の高齢化や空き家の増加等により、未投雪箇所が増えている
- ・雪を処理(融雪)するための安価な熱源が必要

雪堆積場等の位置図(令和6年度(2024年度))



2 雪対策の現状と課題（除排雪手法）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■ロードヒーティング(RH)

課題・ポイント

- ・平成10年以降：スタッドレスタイヤの性能向上や改修費等の増大等により、新たな整備は極力行わず、凍結防止剤の散布強化等に対応
- ・平成14年以降：道路の縦断勾配が6%以下の区間でRHを停止（R7.4までに約200箇所停止）
- ・今後も残していく施設については、老朽化に伴う計画的な改修が必要



- 歩道橋
 - ・37箇所
 - ・総延長 約2 km
 - ・総面積 約3,800m²



- 車道
 - ・365箇所
 - ・総延長 約34 km
 - ・総面積 約180,000m²

※この他、階段、歩道や路側帯の敷設箇所もある

■転倒事故・対策

- ・つるつる路面の転倒事故：例年、約1,000人※
※11月から3月の5か月間に、道路上で転倒し救急搬送された件数の10年平均値
- ・対策：札幌市による滑り止め材の散布のほか、市民や企業による砂まきの協力を呼びかけ
- ・砂箱：都心部や地下鉄駅の周辺など、人通りの多い交差点を中心に設置



つるつる路面の歩道

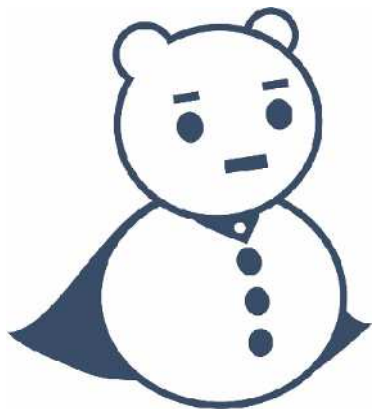


砂まき協力

課題

- ・降雪、気温、日の当たり方などにより、刻々と変化するつるつる路面への対策

3 生活道路除排雪の在り方検討



3 生活道路除排雪の在り方検討(現状・課題)

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■除排雪作業の現状(新雪除雪)

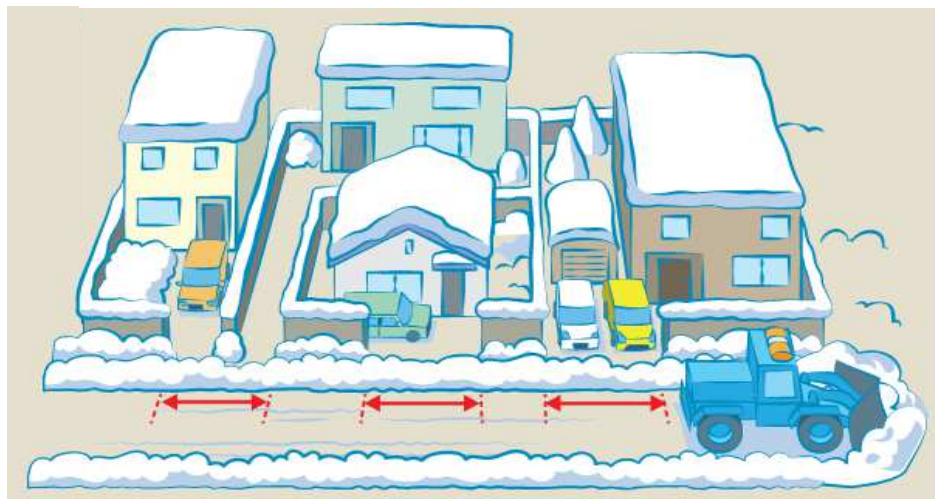
- 通勤や通学時間帯の渋滞を避けるため、深夜から早朝にかけて一晩で一斉にかき分け除雪



新雪(かき分け)除雪

課題・ポイント

- 出入口前に寄せられた雪の処理は市民の皆様にご協力をお願い
- 高齢化の進行などから雪処理に負担に感じる方は益々増加が予想



かき分け除雪で寄せられる雪のイメージ



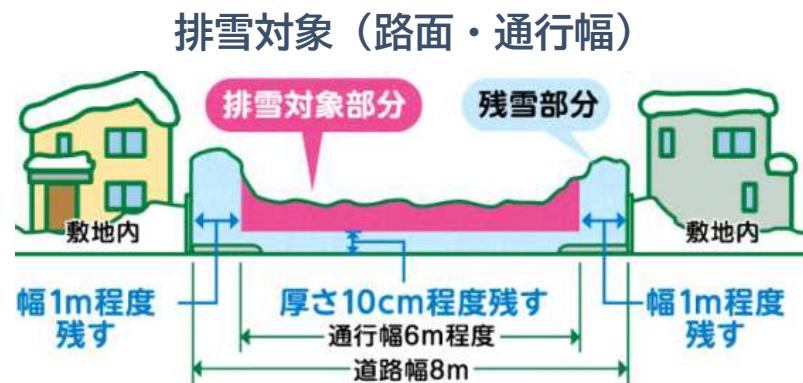
雪処理の様子

3 生活道路除排雪の在り方検討(現状・課題)

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■除排雪作業の現状 (パートナーシップ排雪制度)

- ・ 地域と行政が費用負担し合って、生活道路の排雪を実施(幹線道路の運搬排雪が完了した2月頃)
- ・ 降雪状況などによらず、作業回数はシーズン1回限り



課題・ポイント

【地域】

- ・ 地域支払額の高騰による費用負担や町内会加入率の低下に伴う不公平感の増大など

【除雪事業者】

- ・ 従事者の高齢化や将来的に見込まれる担い手不足
- ・ 除雪機械の老朽化、価格高騰
- ・ ダンプトラックや交通誘導員確保の困難化など

【行政】

- ・ 在宅介護サービスや宅配の普及などにより、生活道路の役割や冬季道路環境に対する市民ニーズは変化



3 生活道路除排雪の在り方検討(現状・課題)

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■冬季道路環境の現状

- ・ 排雪の有無や作業時期によって路面や通行幅などの地域差が大きい
- ・ 急な暖気によりザクザク路面が発生する場合もある
- ・ 町内会単位での工程調整など非効率な部分がある



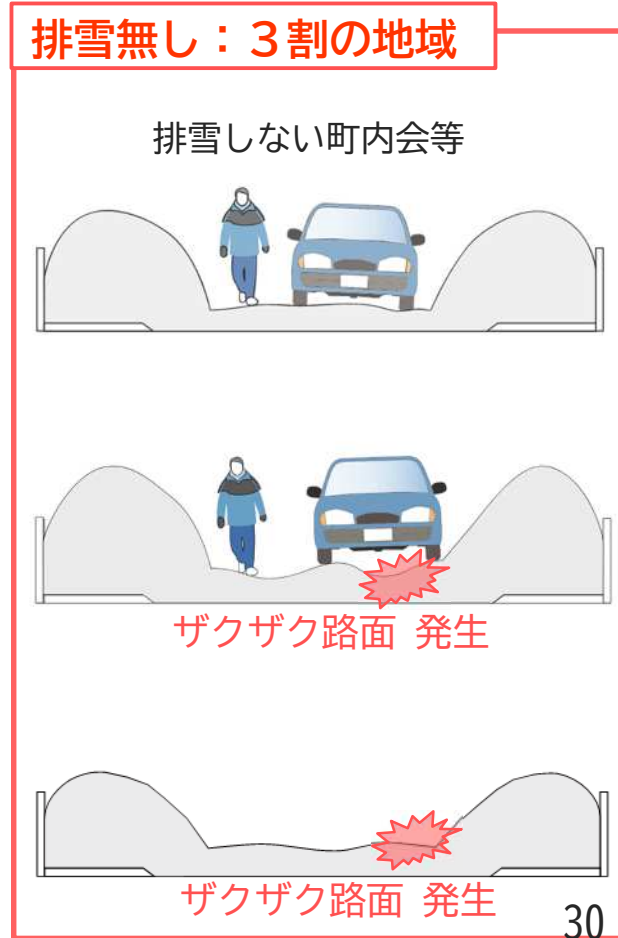
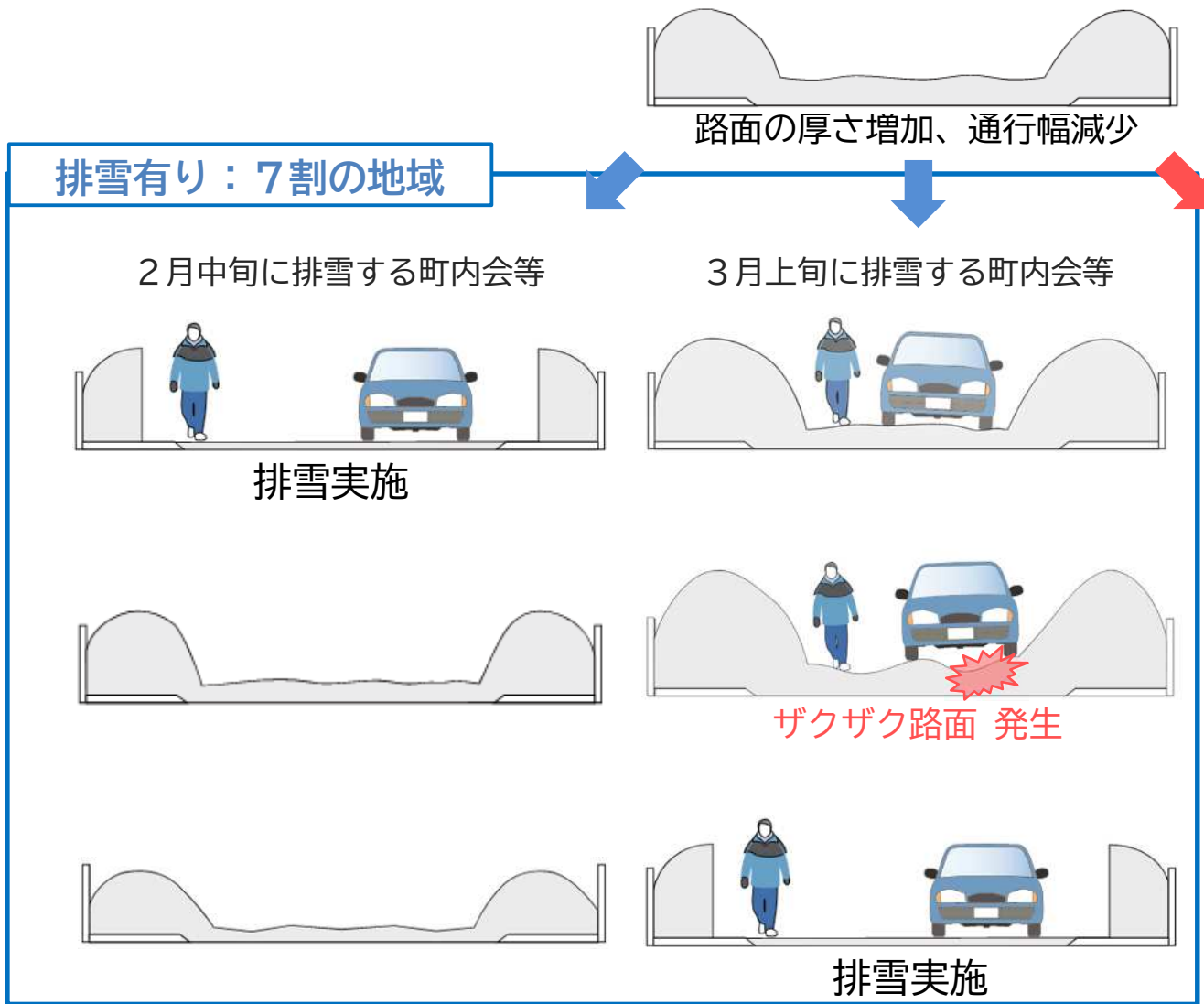
※ 除雪延長5,460kmから幹線道路など市が排雪を行う道路延長を除いた値

2月上旬

中旬

下旬

3月上旬



3 生活道路除排雪の在り方検討(手法の検証)

■生活道路除排雪の在り方検討（令和5年度～）

- ・ パートナースhip排雪などの排雪支援制度によらず、生活道路全線を対象に除排雪作業を実施する場合、どのような作業が可能か検討を開始
- ・ 「生活道路除排雪の試験施工」を実施し、ザクザク路面の軽減など、シーズンを通した冬季道路環境の確保や更なる作業の効率化などに向けた、検討の基礎資料を収集

■持続可能な生活道路除排雪の在り方検討会（第3回事務局説明_R6.11.20）

- ・ 仮に除雪対象の生活道路約3,800kmを市が排雪する場合、想定される手法の一例をケーススタディ形式で説明



仮に事業費を増額した場合にも、作業ピーク時の最大作業班数が足りない(大幅な増強は困難)

3 生活道路除排雪の在り方検討(手法の検証)

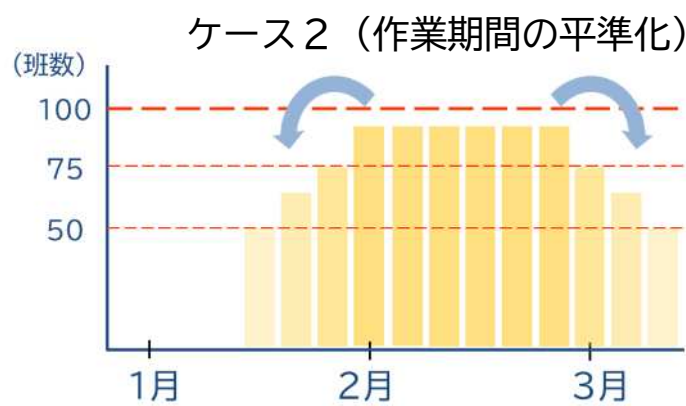
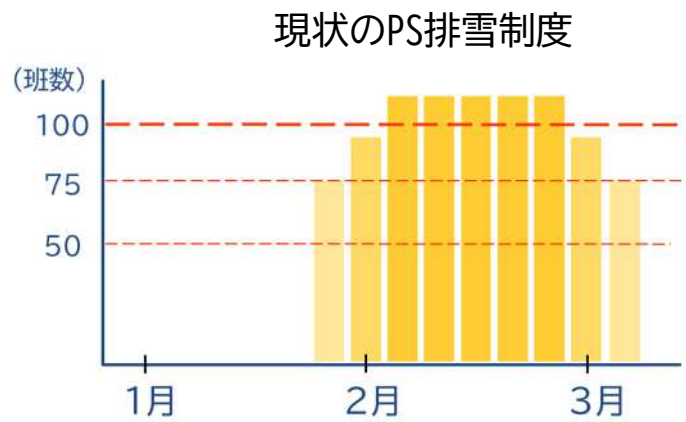
札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■持続可能な生活道路除排雪の在り方検討会（第3回事務局説明_R6.11.20）

- ・ 将来的に除雪従事者等が減少した場合にも対応できるよう、作業開始時期の前倒しなどにより、作業日数を50日間確保（作業期間の平準化）
- ・ 排雪量はパートナーシップ排雪の標準断面よりも抑制

	現状のPS排雪制度		ケース2※1
対象延長	2,600km		3,800km
作業期間(日数)	35日間		50日間※2
排雪量	PS標準断面		PS標準より抑制
事業費	45億円 (行政35+地域10)		行政35億円+α※3
最大作業班数 (作業ピーク時)	110班		90班※4

- ※1 今後の除排雪手法として決定したものではない
- ※2 作業開始時期の前倒し等により作業日数を確保
- ※3 降雪量や排雪量などにより事業費に変動が見込まれる
- ※4 将来的な従事者減少に備えた体制を想定



作業ピーク時の最大作業班数が減少しても、対応できる可能性を確認

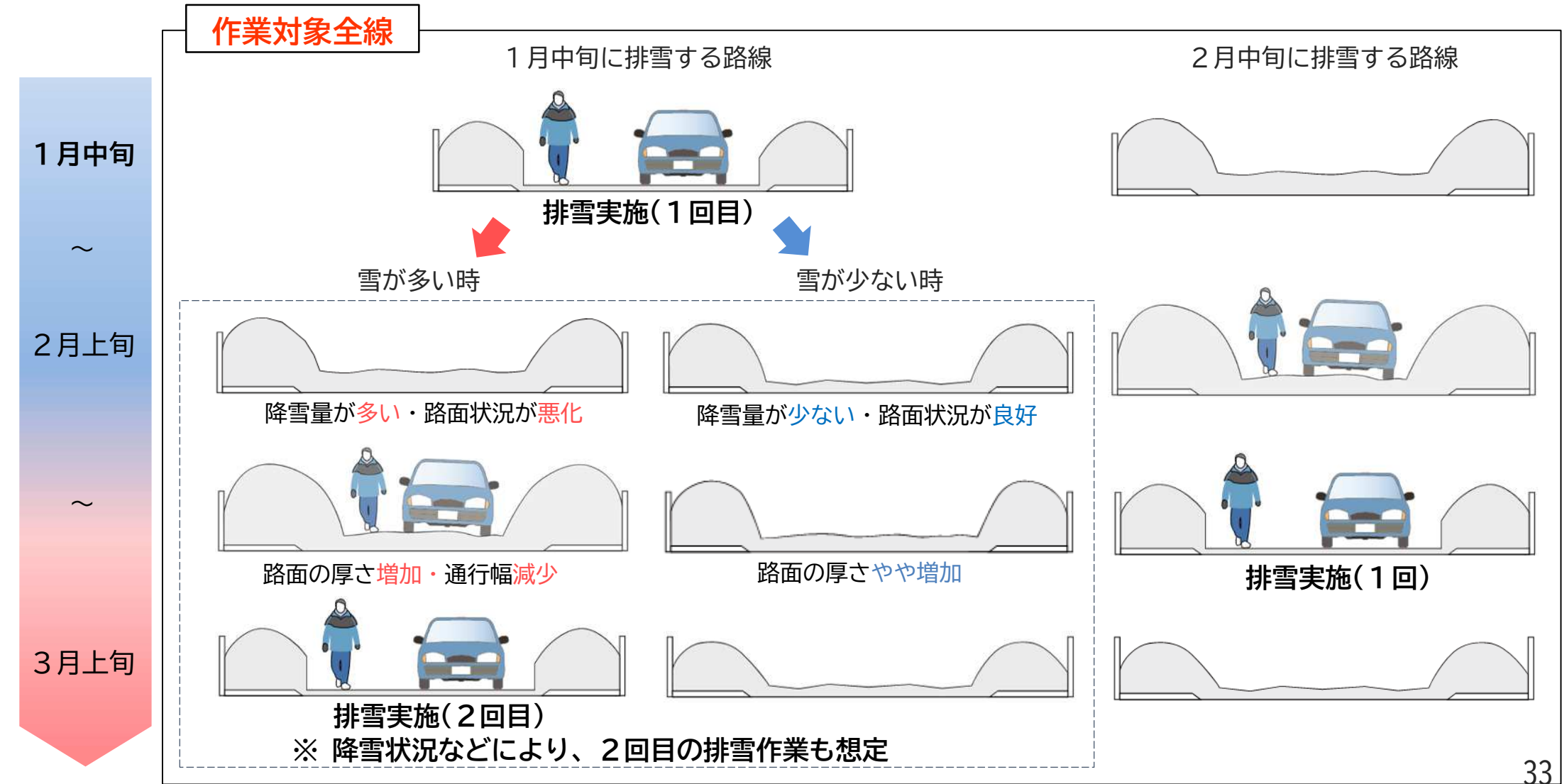
※ 事業費は降雪量や排雪量などにより変動。今後の試験施工の結果などを踏まえて設定

3 生活道路除排雪の在り方検討(手法の検証)

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■札幌市が検討している冬季道路環境(路面・通行幅)

- 降雪や道路状況などに応じた**除雪**と**排雪**により、シーズンを通して路面・通行幅を確保
- 排雪作業の開始時期を1月中旬頃に前倒し、作業期間の平準化を図る
- その後の降雪状況などにより、排雪作業回数は1回に限らない場合も想定

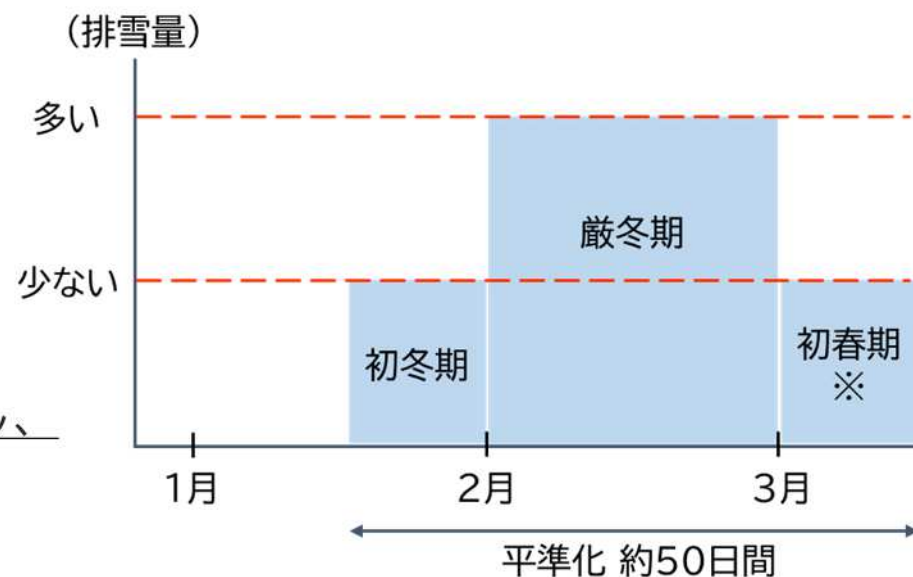


3 生活道路除排雪の在り方検討（試験施工）

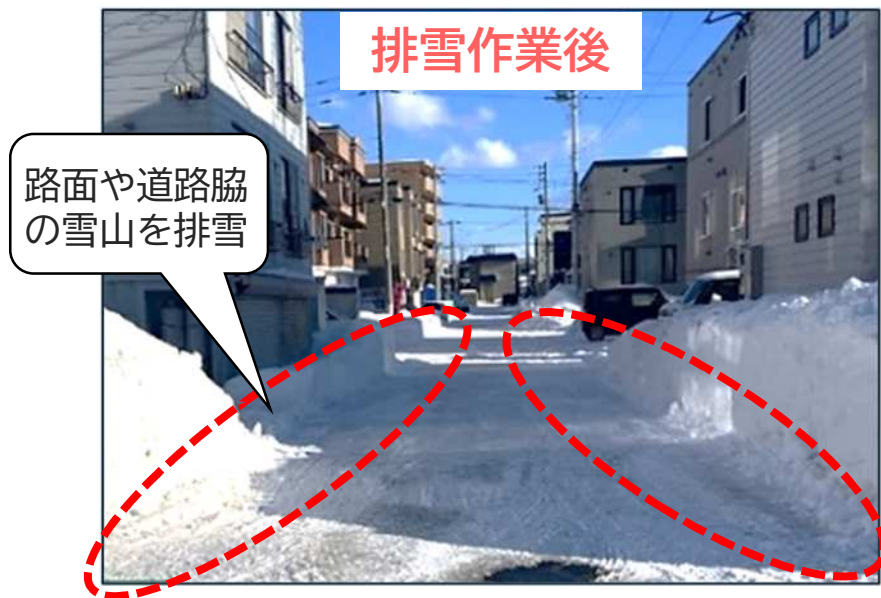
札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■令和7年度 生活道路除排雪の試験施工(予定)

- ・ パートナシップ 排雪のような、地域支払額は無し
- ・ 排雪作業の開始時期を1月中旬頃に前倒して作業期間を平準化
- ・ 降雪状況などにより、作業回数は1回に限らない場合も想定※
- ・ 排雪作業により、除雪作業時の雪置き場を確保し、その後のザクザク路面を軽減



<作業イメージ>

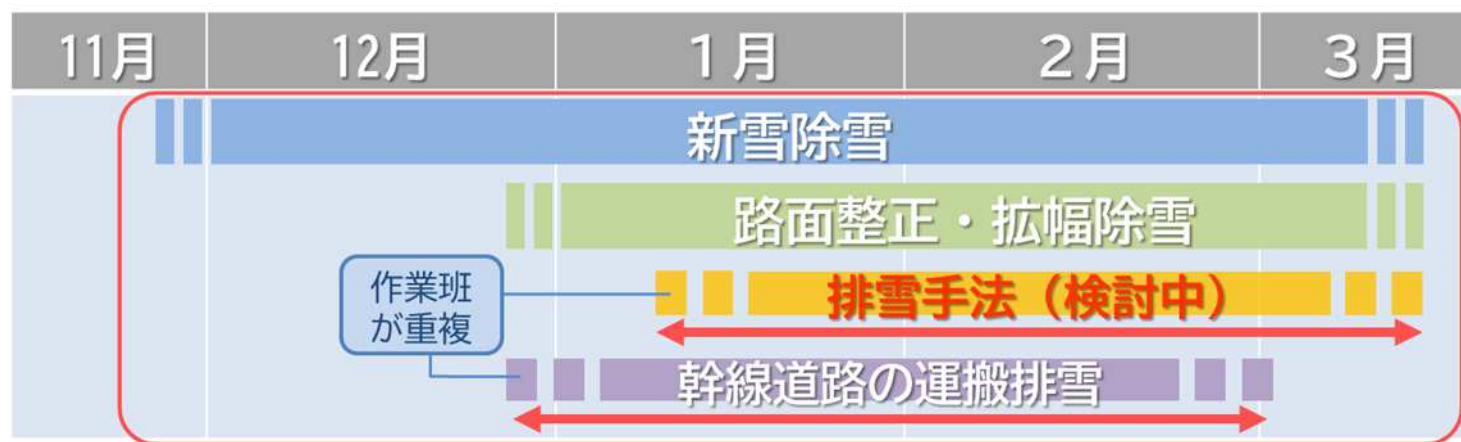


3 生活道路除排雪の在り方検討（試験施工）

札幌市雪対策審議会
令和7年度(2025年度) 第1回除排雪手法小委員会

■令和7年度 生活道路除排雪の試験施工(予定)

- ・生活道路の除排雪作業と幹線道路の運搬排雪等と工程調整をしながら、面的に規模を広げて実施
- ・ザクザク路面の軽減など「シーズンを通した冬季道路環境の確保」や「除排雪作業の効率化」「費用負担や不公平感の解消」などに繋がるか確認



■今後の検討スケジュール

令和8年度(2026年度)：雪対策の「基本方針」の策定

パートナーシップ排雪制度等も含む、今後の生活道路除排雪の在り方の方向性を整理

令和9年度(2027年度)以降：R8年度の方方向性を踏まえて、生活道路の除排雪手法を決定

※除排雪手法を見直す場合は、地域や除雪事業者の準備・調整等に期間が必要

4 意見交換やご議論いただきたい内容

＜参考＞第2回除排雪手法小委員会の議論イメージ



■課題・要点のまとめ

1. 第1回審議会の概要

- 人口減少に伴う**担い手不足**や**税收減**
- 除排雪に対する**高い市民ニーズ**
特に高い**生活道路へのニーズ**

2. 雪対策の現状・課題

- 雪対策**予算の増大**
- 除排雪**体制の維持**
担い手不足・除排雪機械、
雪堆積場・雪処理施設、ロードヒーティング、
つるつる路面への対応
- 除排雪**作業の効率化**
- **大雪や異常気象**への対応

3. 生活道路の除排雪

- **市民ニーズの変化**への対応
在宅介護サービス・宅配の普及
- **パートナーシップ排雪制度**の負担や
不公平感の増大
- **ザクザク路面**への対応
- 除排雪手法検討の**試験施工**

■ご議論いただきたい内容

札幌市の除排雪、冬のシーズンを通した道路環境(通行幅・路面の状態)に期待すること

4 意見交換やご議論いただきたい内容

■＜参考＞除排雪手法小委員会(第2回以降)の議論イメージ

＜検討・議論の視点＞

人口減少に伴う担い手不足、税収減少のリスク



項 目	期 間	
	I 短 期 (10年程度)	II 長 期 (10～30年程度)
除排雪体制 担い手・除雪機械	体制 - I	体制 - II
雪対策予算	予算 - I	予算 - II

※予算規模小委員会にて検討

＜除排雪手法小委員会 第2回以降の予定＞

- ・ I (短期) と II (長期) それぞれの期間において想定されるケースを例示
- ・ それぞれのケース (I・II) において
幹線道路や生活道路などの除排雪作業はどうなるのか、課題解決に向けた方策
冬季の通行幅と路面 (道路環境)はどうなるのか、どうあるべきか
などについてご議論いただく予定